



# 茨城県地域臨床 教育センターだより

2013  
Vol.05

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 平成25年3月1日発行(第5号)

## 麻酔科って何をしている科?



准教授

星 拓男

専門領域 ■ 臨床麻酔  
■ 手術医学  
■ 集中治療

茨城県立中央病院の麻酔科は昭和37年1月に開設されており、平成23年1月より既存の麻酔科に加わる形で診療を開始しています。平成24年1月に5人に減少した常勤麻酔科医も4月より6人の体制に戻り、一時中断を余儀なくされた術前外来も再開をさせています。

“麻酔”という言葉から受けるイメージとしては、高校生に対して2006年に行われたアンケートでは、歯科医院で行われる局所麻酔という答えが一番多いものとしてあげられたようですが、当院の麻酔科は手術室で主に全身麻酔の患者さんの周術期管理を担当しています。世界においても近代麻酔の歴史は浅く、1804年10月13日に花岡青洲が世界で初めて全身麻酔の下、乳癌の手術を成功したとされています。その後1952年に東京大学に麻酔科が設立されましたが、日本における近代麻酔の歴史はまだ60年くらいしかありません。その分現在、日進月歩で進歩しており、ほんの数年前に使用していた薬がほとんど使用されなくなったり、新しい考え方がどんどん導入されてきています。

当院の手術の特徴として、地域がんセンターが併設されているため、腹部の悪性腫瘍手術の割合が高いことが挙げられます。その中でも特に消化器外科の肝・胆・膵の手術が多くなっています。そのため出血量が多い手術も多く、術中の輸液管理・循環管理の大変な症例も多くあります。当科ではGIFTASUPをはじめERAS、CDCガイドラインなど最近出された多くの国際的に出されたガイドラインや推奨に基づいた医療を行うことで、手術を受ける患者さんの合併症の減少や予後の改善に寄与できるように努力しています。平成23年以降の手術室での変化として、術後疼痛管理に患者管理型疼痛管理機器（PCA）の導入を行い、手術中の体温管理のための輸液の変更や術前の経口補水の開始などを行ってきました。

また、多くの病院と同様当院でも年々手術件数は増加しており、平成20年度から23年度まで麻酔科管理手術症例数は毎年、1682件、1796件、1844件、2238件と確実に増加をしています。さらに内視鏡手術の導入などもあり手術件数のみならず総手術時間も増加しています。我々麻酔科は、手術室での麻酔管理に加えて、術前の患者状態の把握、管理目的の術前外来に加え、術後回診、集中治療部の患者把握を行い、周術期全体の患者管理に関わっています。詳しくは下記当科のホームページをご覧ください。  
<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/patient/subject/masui/index.html>



研修医に対する気道確保の指導



硬膜外麻酔施行中の様子

## カナダの胸部外科の現場に触れて



講師  
鈴木 久史

専門領域 ■ 呼吸器外科

筑波大学の「組織的な若手研究者等海外派遣事業」により海外の病院見学を行う機会を得られたため、2012年11月中旬から2013年1月中旬までの2か月間、カナダのトロントにあるトロント総合病院の胸部外科を見学してきました。

カナダ最大の都市トロントは北米5大湖のひとつオンタリオ湖の北西岸にある人口約260万人の都市であり、その中心部に位置するトロント総合病院は1829年創立の歴史ある病院です。胸部外科では世界初の両肺移植手術の成功で有名であり、現在では日本を含め世界各国から多くの医師・研究者が集まる世界でもトップクラスの病院となっています。

胸部外科とは、心臓と大血管を除く胸部の臓器・組織を対象とする外科で、われわれ呼吸器外科医が扱う臓器（気管、肺、胸腺、胸壁など）に食道を加えた外科の呼称となります。手術対象となる疾患は、肺がんなどの肺腫瘍、気管や胸壁発生の腫瘍、食道がんなどです。トロント総合病院では手術症例数が大変多く、ほぼ毎日、2つの手術室で並行して胸部の手術が行われていました。短期間で多くの症例を行う必要があるため、日本よりも効率的な診療システムが構築されている印象がありました。例えば、入院期間の短縮化のために、ほとんどの手術の場合、患者さんは手術当日の朝来院し、手術前待機室で準備を行いながら手術時間まで待ち、手術の後に病棟に上がるという流れでし



トロント総合病院

た。術後も通常の肺がんの切除であれば4~5日程度で退院となっていました。

手術の内容（術式）については日本とは大きな変わりはありませんでした。しかし、ひとつ新しいことは、肺がんの手術にロボット支援システムを導入していることです。ロボットによる手術といっても機械が勝手に手術をしてくれるわけではなく、患者さんの体に開けた複数の小さな孔からカメラや細長い手術器械を挿入してロボットのアームに接続した後、それらを手術室内にある操作装置によって外科医が細かく操作するというシステムです。現在日本国内で行われているロボット支援手術のほとんどは前立腺がんに対する手術であり、肺に対して行っている施設は大変少ない状況です。よって今回、海外で肺がんのロボット支援手術を見学することができたのは自分にとって大変貴重な経験となりました。ロボット支援手術は今後国内で肺の手術にも徐々に適用されていくと考えられます。筑波大学や茨城県立中央病院でもこのロボット支援システムの導入を検討していますので、今回の経験を生かして、当センターでのロボット支援システムによる肺がん手術の運用開始を目指していきたいと思います。今後の当センターでの肺がん治療にご注目ください。



ロボット支援システムによる肺がん手術



胸部外科部長 Dr. Waddell と



筑波大学  
University of Tsukuba

筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/rinsyokyoiku/index.html>



茨城県